

企業訪問 資源循環レポート

名環サービス(株)

100%のサーマルリサイクル

をめざして

名環サービス(株)



名環サービス株式会社

■代表者/竹内 良一

■所在地/愛知県春日井市出川町2丁目31番地の2

TEL:(0568)51-7272 FAX:(0568)51-8727

2つの中間処理施設でリサイクルと減容化に取組

名環サービス(株)は地球環境を守り、資源の無駄をなくすという考えから、完備された産業廃棄物処理施設で、廃棄物の収集運搬、分別、破碎、リサイクル活動までを行っています。



社長自ら廃タイヤを切断しチップ化する小牧リサイクルセンターを案内

現在、春日井市内の内津川に面し、竹林に囲まれた施設で分別、破碎の中間処理を行っています。

ここには建設廃材や事業所から出る廃棄物が搬入され、約7割が自社で収集したもので3割が他社から搬入されたものです。集められた廃棄物はマンパワーと機械パワーを動員して分別、減容化しています。代表取締役の竹内社長にお話を伺いました。

「混ぜるとごみですが、分別すれば資源になります。分別のマンパワーは、近隣のシルバー世代の皆さんにご協力をいただいています。まだまだ外に出



建設廃材を中心に分別、破碎を行う中間処理施設

て働きたいという意欲のあるシルバー世代の皆さんは、とても仕事が丁寧で感謝していますし、地域の皆さんは喜んでいただいています。」

また、分別については「そうしてマンパワーで木質系、石膏ボード、コンクリート片など大雑把に分類し、大型破碎機にかけます。破碎片は資源化できるものと最終処分するものに分別しています。発泡スチロール類は、溶解機で液化し減容します。自動車部品工場などで使われたローラー状のゴムは、大型の裁断機で減容します。今のところ最終的には埋立に頼らざるを得ない状況で、最終処分場延命のためには減容の努力は大切だと思っています。」と分別の重要性を強調されました。



木くず、廃プラスチック類、石膏ボードなど分別、選別し、資源化する破碎施設

「当社の基本姿勢は、リサイクルできるものはリサイクルすること。中間処理施設では分別、選別により資源化に取り組んでいます。例えば石膏ボードはそのままリサイクル可能な物と、表面加工の紙をはがして粉碎しなければ資源として扱われない物があります。一つ一つの条件をクリアし、積替え保管施設でトラック一杯分の量になるまで保管し、それぞれの量が輸送量に達した時、資源として使われる工場に運ぶようにしています。現在7割強をリサイクルしています。」



ユーザーニーズに合わせて、どんなサイズにもカットできる設備

竹内社長のお話を伺いながら小牧の工業専用地域にある小牧リサイクルセンターに移動し、廃タイヤのリサイクル工場を案内していただきました。

「こちらは8年前から廃タイヤのリサイクルを行っています。取引先の王子製紙と最初は廃プラスチック類だけの取引だけでしたが、ある日カットタイヤが置いてあるのを見て、“これは何ですか？”と質問すると、カットタイヤをボイラーの原料として使っているとのこと。重油は価格に変動があるため、カットタイヤの安定した価格が喜ばれていました。その上、処理がまだまだ足りなく、請け負ってもらおうと嬉しいとのこと、ちょうど業務内容をもう1つ増やしたいと考えていた時期でもあり、設備を整え引き受けることにしました。現在は自動車販売会社、タイヤ販売店をはじめとして航空機やキャタピラーの廃タイヤを扱っています。リサイクルで卸すところが王子製紙という点も信頼につながっています。

この工場は24時間稼働可能で、1日10トンの処理ができますが、現在は5トン弱なのでまだまだ余力があり、今後の成長を楽しみにしているところです。」と話されました。

いずれの施設も掃除が行き届き、とてもきれいな印象を受けました。施設をきれいに保っている上、本社を囲む塀には動物や海のイラストを描き、地域の皆さんにも受け入れられている印象でした。

「生え抜きのスタッフもいるので安心はしていますが、今後は後継者を育てていきたいと思っています。」と笑顔で話す竹内社長。周囲の人々に配慮し、一つ一つの作業を丁寧に取り組む竹内社長と名環サービスの今後にさらに期待しています。